

# 漁連だより

2026

1

No.361



令和8年 長崎魚市株式会社初市式の様子

## CONTENTS/目次

### 特集 年頭挨拶 P1~

長崎県漁業協同組合連合会 代表理事会長 高平 真二	.....P1
全国漁業協同組合連合会 代表理事会長 坂本 雅信	.....P2
長崎県水産部 部長 吉田 誠	.....P3
長崎県かん水魚類養殖協議会 会長 平野 重美	.....P4
長崎県漁協青壮年部連合会 会長 與賀田 祐	.....P5

令和8年「長崎県漁連煮干共販初入札会」を開催	.....P6
第62回長崎県漁協専務参事会通常総会	.....P7
令和7年度 長崎県漁協管理職員研修会	.....P8
令和7年度 県外浜廻り活動の実施	.....P9
漁協合併のお知らせ	.....P10
長崎県漁協青壮年部連合会会員・部員大募集	.....P11
募金ありがとうございます	.....P11



# 令和8年『年頭ご挨拶』

長崎県漁業協同組合連合会

代表理事会長 高平 真二

新年明けましておめでとうござ  
います。年頭にあたり謹んでご挨拶  
申し上げます。

昨年を振り返りますと、長引く  
ロシアによるウクライナ侵攻やイ  
ラン・イスラエルの衝突の影響に  
よる原油価格の上昇、恒常化しつ  
つある円安など、漁業を取り巻く  
環境としては燃油の高止まりや漁  
業資材の高騰等、多くの漁業者に  
とって厳しい1年となりました。  
物価高騰は国民生活を圧迫し国内  
消費の伸びは限定的であったと感  
じます。国外に向けてはアメリ  
カや台湾、タイ、韓国等への輸出  
が好調であったように思います。  
しかしながら、中国向けについて  
は、ALPS処理水の海洋放出に  
伴い停止されていた日本産水産物  
に関しては、輸出再開に向け一歩  
前進したものの、輸出業者として

再登録する必要があることや検査  
項目の追加により、依然として輸  
出再開に向けたハードルは高いま  
まとなっております。

一方、県下の状況に目を向けま  
すと、マイワシやイサキ、タコ、  
イカ類が好調な水揚げとなりまし  
たが、反面、多くの魚種で不安定  
な水揚げが続ぎ、特にトビウオや  
シイラは著しい減少となりました。  
また、スルメイカについては、春  
先にまとまった水揚げがあったも  
の、太平洋側の豊漁により小型  
いか釣り漁業において採捕停止命  
令が11月に発出されたことに伴い、  
これから盛漁期を迎える本県漁業  
者も採捕停止の対象となる事態と  
なりました。  
本会としましても、この厳しい  
状況を乗り越えるため、セーフ  
ティネット構築事業や漁業担い手

確保・育成事業、各種リース事業  
等の更なる活用を図るとともに、  
TAC制度の運用についても漁業  
者への過度な規制とならないよう、  
TAC管理体制の見直しや資源評  
価の精度向上等について、引き続  
き訴えて参りたいと考えておりま  
す。

また、経済事業につきましても、  
本県水産業の特徴でもある豊富な  
魚種と生産量を活かした買付業務  
の強化を図り、全国に誇る長崎ブ  
ランドの水産物を展開し、漁家経  
営の安定に貢献できるよう、関係  
団体との連携を強め努力して参り  
ます。

最後に、この1年が皆様にとり  
まして良き年でありますとともに、  
豊漁と操業の安全、ご多幸を心よ  
り祈念いたしまして、新年のご挨拶  
といたします。



# 「新年のご挨拶」

全国漁業協同組合連合会

代表理事会長 坂本 雅信

あけましておめでとうござい  
ます。年頭にあたり、全国の皆さま  
に謹んで新年のご挨拶を申しあげ  
ます。

近年、国内外における社会・経  
済情勢は混迷を深めており、漁業  
を取り巻く状況についても前浜の  
魚種の変化や漁獲量の大幅な変動、  
魚介類の育成に必要な藻場・干潟  
の減少などが顕著になっておりま  
す。また、昨年は陸奥湾における  
ホタテガイや瀬戸内海におけるカ  
キの大量斃死など、全国各地で「海  
洋環境の激変」が原因とみられる  
被害が多発した1年でありました。

この「海洋環境の激変」という  
難題に的確に対応し、水産資源の  
持続的な利用を実現していくため、  
JFグループでは、「海洋環境の  
激変に立ち向かうJF自己改革の  
断行」をスローガンとした5カ年

の運動方針を策定し、昨年4月か  
らスタートさせたところです。

私自身、日本の漁業にはポテン  
シャルがあると確信しており、今  
がまさにそのポテンシャルを引き  
出す時だと考えております。そこ  
で、JFグループでは運動方針の  
下、漁業者およびJFの経営基盤  
の強化を図るとともに、自らが取  
り組む事業や経営に関する改革を  
進めて参ります。さらに、海洋環  
境の激変や物価上昇による漁業用  
の燃油・資材・餌飼料価格の高騰、  
ALPS処理水の海洋放出に伴う  
海外における水産物の輸入規制な  
どの課題克服に向けて、組織の総  
力をあげて取り組んで参ります。

また、地域ごとの実態やニーズ  
を踏まえて水産業・漁業を振興さ  
せることを目指して、「浜の活力  
再生プラン」、「広域浜プラン」の

実践や異業種企業、農林業・商工  
業者との連携を図るとともに、将  
来を見据えた資源と環境を同時に  
回復させるための「環境回復型漁  
業」にも力を入れて参ります。併  
せて、プライドフィッシュプロ  
ジェクトなどを通じて、日本産水  
産物の消費拡大の一翼を担ってい  
く所存です。

JFグループ関係者の皆さまに  
おかれましても、これまで以上に  
英知と総力を結集していただき、  
本会の活動に対して、引き続きの  
ご協力・ご賛同を頂きたいと思い  
申しあげます。

最後となりますが、漁業の豊か  
な将来を念じつつ、全国各地でご  
活躍の皆さまの操業の安全とご繁  
栄・ご健勝を祈念いたしまして、  
新年のご挨拶といたします。



# 「新年のご挨拶」

長崎県水産部  
部長 吉田 誠

新年明けましておめでとうございます。皆様方には、健やかに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

本県の水産業は、県内の幅広い関連産業を支え、地域社会の維持に大きな役割を担う重要な基幹産業です。近年、海面漁業・養殖業の生産量・産出額や新規漁業就業者数の増加傾向などの明るい状況も見られる一方、資源の変動や赤潮の発生、燃油・飼料・資材価格の高止まり等もあり、自然・社会の環境変化への対応がますます重要となっております。

これらの課題を乗り越え、水産業振興や漁業所得の向上に向けた新たな一歩を踏み出せるよう、県では、令和8年度から5か年の新たな総合計画「長崎県総合計画みんなの未来図2030」を策定し、また、水産分野の個別計画として「長崎県水産業振興基本計画」の

策定に向けた検討を行っているところですが。

具体的な内容としては、「力強く稼ぎ持続的に成長する水産業と漁村の賑わいづくり」を基本理念とし、新漁法導入や経営の多角化等による環境変化に強く収益性の高いモデル経営体の育成、スマート水産業の推進、規模拡大等による養殖業の成長産業化、生産・加工・流通のバリューチェーン強化による県産水産物の高付加価値化、新規漁業就業者の確保と定着促進、漁村の賑わいと新たな所得の創出のための海業の促進、漁協の経営基盤強化などに取り組めます。

本県水産物輸出額については、令和6年度実績で約70億円と近年増加傾向にあり、品質の高い県産養殖魚をさらに海外へ売り込んでいくため、養殖業の生産体制強化や海外市場の開拓に特に力を入れて取り組んでまいります。

また、昨年12月には、国の「強い経済」を実現する総合経済対策」を踏まえ、県議会において11月補正予算が成立しました。水産部では、国の漁業経営セーフティネット構築事業への加入・継続のための積立金の支援を昨年同様に措置しており、燃油や配合飼料価格高騰の影響を受ける漁業者の経営安定化が図られるよう、継続して支援してまいります。

県としては、力強く稼げる水産業の実現のため、引き続き、現場の声をお聞きしながら必要な施策を着実に推進してまいりますので、皆様方のご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年が皆様にとりまして、輝かしい年となりますよう、今後益々のご健勝とご多幸並びに豊漁と安全操業を心からお祈り申し上げます。新年のご挨拶といたします。



# 「新年挨拶」

長崎県かん水魚類養殖協議会

会長 平野 重美

明けましておめでとうござい  
ます。

皆様におかれましては、輝かし  
い新年をお迎えのことと、心より  
お慶び申し上げます。

現在の魚類養殖業は、地域にお  
ける基幹産業として地方の維持・  
活性化に欠かせない存在となつて  
います。また、国民の豊かな食生  
活を支える食料安全保障の担い手  
であるとともに、今後さらなる成  
長が期待される輸出産業としても  
重要な役割を果たしています。

しかしながら、世界的な養殖業  
の発展や、餌飼料原料となる天然  
資源の減少に加え、緊迫した国際  
情勢や円安の進行などの影響によ  
り、生産コストの約7割を占める  
餌飼料価格をはじめ燃油や養殖資  
材が高騰しています。特に配合飼  
料価格はこの3年間で1.5倍〜  
2倍まで上昇しており、経営を大  
きく圧迫しています。さらに、「自  
然環境の変化」と「社会環境の変  
化」が、その状況に拍車をかけて  
います。

「自然環境の変化」としては、  
夏場の高水温や赤潮の早期化・長  
期化が挙げられ、生存率の低下や  
成長不良が頻発しています。また、  
「社会環境の変化」としては、中  
国による日本産水産物の禁輸措置  
が挙げられます。昨年11月には一

時的に輸出が再開されたものの、  
わずか10日後には再び禁輸措置が  
取られるなど、先行き不透明な混  
沌とした状況が続いています。

加えて、アメリカの自国第一主  
義に基づく関税措置により、輸出  
減速といった新たなリスクも生じ  
ており、輸出向け増産分が国内市  
場へ還流した場合には、需給バラ  
ンスが崩れる可能性も懸念されま  
す。

さて、昨シーズンを振り返りま  
すと、餌飼料価格や資材価格の高  
騰に加え、高水温や赤潮などの急  
激な環境変化、それに伴う疾病の  
発生など、養殖業は極めて厳しい  
経営状況に直面しました。特に生  
餌価格の高騰は深刻であり、早急  
な対応が求められています。生餌  
向けサイズのサバやイワシの資源  
管理は、持続的な漁獲量を守るう  
えで必要不可欠である一方、現状  
のままでは養殖経営が成り立たず、  
廃業に追い込まれる事態も危惧さ  
れます。このため、本協議会とい  
たしても、全海水を通じて国に対  
し、左記5つの項目について要望  
を続けているところです。

①ブリ及びカンパチ種苗安定確保  
に向けた人工種苗の生産対策およ  
び育種体制の整備・構築への継続  
的な支援  
②急激な環境変化とそれに伴う疾

病への対応

③インフレや関税等の情勢変化を  
踏まえた経営安定対策

④配合飼料高騰に対する緊急的措  
置

⑤生餌安定確保に向けた措置

一方で輸出につきましては、韓  
国において日本産養殖ブリの品質  
が高く評価され、需要を押し上げ  
ています。特に若年層を中心に「日  
本産の方が美味しい」と指名買  
いされるケースも増えており、今後  
さらなる需要拡大が期待されます。  
県産魚の海外需要が高まることで、  
今年の魚価が上昇基調となり、国  
内相場をけん引することにつな  
がるものと期待しています。

加えて、本県養殖魚のさらなる  
販売拡大を図るため、安全・安心  
な長崎県の養殖魚であることを担  
保する「適正養殖業者認定制度」  
の認知向上および加入促進に努め  
てまいります。

今後も本協議会といたしまして  
は、本県養殖業者の経営安定を図  
るため、各種事業の推進に取り組  
んでまいります。関係者の皆様にお  
かれましては、引き続きご理解  
とご協力、ご支援を賜りますよう  
お願い申し上げます。年頭の挨拶とい  
たします。



新年挨拶

# 本県水産業の発展に向けて

長崎県漁協青壮年部連合会

会長 與賀田 祐

明けましておめでとうござい  
ます。健やかに新春をお迎えのこと  
とお喜び申し上げます。

旧年中は各漁協青壮年部をはじ  
め、系統団体や行政の皆様方には  
本会の活動に對しまして、多大な  
ご協力を賜り、心より厚く御礼  
申し上げます。

さて、昨年は岩手県大船渡市で  
の山林火災をはじめ、全国各地で  
の台風や大雨による被害が発生し、  
特に局地的な豪雨は従来の経験則  
が通用しない場面も多く、自然災  
害の深刻さを改めて実感いたしま  
した。水産業界においても、海況  
の変化や組合員の高齢化、スルメ  
イカのTAC超過による採捕停止  
命令など、漁業経営に大きな影響  
を及ぼす1年となりました。

このような状況の中、県漁青連  
では長崎女子短期大学の1・2年  
生を対象に水産教室を実施し、魚  
の捌き方の指導に加え、魚の種類  
や特徴、漁獲場所への理解を深め  
るとともに、魚食普及と消費促進  
を図りました。

また、第71回定期総会終了後に  
は、漁協青壮年部の日頃の活動や  
漁業体験を通じて得られた意見を  
発表する「意見発表大会」を令和  
元年以来開催し、組織活動の活性  
化に繋がりました。さらに、12月に  
は「第28回全国青年漁業者交流会  
長崎県大会」を開催し、研究実践  
してきた水産業に関する技術、経  
営ならびに地域活動等の成果を発  
表するとともに、交流を通じて活  
動意欲の向上を図りました。大会

翌日にはソフトボール大会を実施  
し、部員同士の親睦を深めました。  
しかしながら、県下漁協青壮年  
部員の高齢化等により、会員数、  
部員数は年々減少傾向にあります。  
本年も、漁協青壮年部活動の強化・  
発展を目指し、積極的な情報収集  
や共有および未加入青壮年部への  
加入推進を重点目標として活動し  
て参ります。皆様のご理解とご協  
力を賜りますようお願い申し上げ  
ます。

結びに、本年が皆様におかれま  
して輝かしい年となりますよう祈  
念するとともに、航海の安全と大  
漁を心からお祈り申し上げ、新年  
のご挨拶いたします。

# 令和8年「長崎県漁連煮干共販初入札会」を開催

購販部 製品販売課

さる1月6日に本会丸尾共販所にて煮干の初入札会が開催されました。県内漁協よりカタクチイワシ・キビナを中心とした煮干約16t（約2,000ケース）が上場されました。

今年の初入札会で上場された煮干は、昨年末に製造し保管されていた煮干がメインであり、昨年の初入札会に比べて2割ほど多い数量となりました。主にカタクチイワシのチリメン・小羽サイズとキビナを中心に上場され、カタクチイワシは年末から伊万里湾でチリメンの水揚げが順調に増えています。

入札会は煮干指定商社13社の担当者によって、魚質・匂い・大きさなどを吟味しながら、平均単価1,305円/kgという高値で取引されました。見付け後は本会の田代専務と長崎県水産物組合の満畑会長より挨拶があり、今年度の水揚げ増加への期待を述べられました。

2025年4月から12月の生産状況につきましては、春先より本格的に水揚げが始まり、5月から9月まではマイワシを中心に上場され、10月より徐々にカタクチイワシのカエリ・小羽サイズが上場されました。また、11月からチリメンも上場され、チリメンの平均単価が4,500円/kgを超える高値で取引されました。

今年の取扱金額は、12月末時点で昨年度を上回る約17億円となっております。



挨拶の様子

近年ではカタクチイワシからマイワシへの魚種交代が起きており、今年度もマイワシの上場数量がカタクチイワシを上回っています。

本会としましては、煮干の姿物・粉末物だけではなく、ラーメンの出汁用煮干や調味加工煮干等、今の時代に合った様々な用途で消費拡大を目指し、長崎県産煮干の生産向上に向けて取り組んでいきたいと考えております。



上場された煮干

# 第62回長崎県漁協専務参事会通常総会

長崎県漁協専務参事会

さる12月11日、長崎県漁協会館にて、第62回長崎県漁協専務参事会通常総会を開催しました。

総会の開催に先立ち、第9回漁業協同組合功労者表彰式を執り行い、中島重幸氏（豊玉町漁協元参事）および、赤木茂弘氏（箱崎漁協元参事）の長年の水産業への貢献を称え表彰しました。

総会では、主催者を代表し、濱村会長（有川町漁協）より開会の挨拶を行った後、長崎県水産部吉田部長、九州信漁連長崎統括支店小田常務理事より挨拶が行われました。



功労者表彰（中島氏）の様子

その後、議案に入る前に今野参事（生月漁協）より職員宣誓10カ条を宣誓し、平田参事（吉岐東部漁協）の司会進行のもと総会を開催しました。議長には北川参事（五島漁協）が選出され、全議案は原案通り承認されました。



職員宣誓の様子

## 【議案】

- 第1号議案 令和6年度活動状況報告及び収支決算承認の件（説明：吉山副会長）（監査報告：小宮監査役）（先進地視察研修：餌網代役員）
- 第2号議案 令和7年度活動計画及び収支予算（案）承認の件（説明：有川副会長）
- 第3号議案 その他

## 【役員改選】

任期満了に伴う役員改選期のため、新たな役員として下記の9名が新役員として

て選任いたしました。また田中新会長より、役員が一丸となり長崎県の水産業を盛り上げていきたいとの抱負が述べられました。

- 会長 田中 大輔（橘湾東部漁協）
- 副会長 餌網代卓也（五島ふくえ漁協）
- 〃 高田 清志（上県町漁協）
- 監査役 山村 高義（九十九島漁協）
- 〃 小畑 剛（勝本町漁協）
- 役員 玉井 満（長崎市たばな漁協）
- 〃 古木 亮（上五島町漁協）
- 〃 濱岡 康之（志々伎漁協）
- 〃 海老名友好（峰町東部漁協）



新役員による挨拶の様子

# 令和7年度 長崎県漁協管理職員研修会

総務指導部指導課

さる12月11日、長崎県漁協会館にて、令和7年度長崎県漁協管理職員研修会を開催しました。

漁業協同組合における管理職員の資質向上を図り、漁協の発展に寄与することを目的に、長崎県漁協専務参事会と共催のもと、漁協管理職員研修会を開催しています。

今年度の研修では、漁村のにぎわいを創出していくことが県内の漁村においても重要な課題となっているなか、地域資源の価値や魅力を活かした振興についての見識を深めるため、『海業』に関わる講師を招き講演を行いました。

□「浜プラン推進を通じた本会による海業取組支援について」海業概要、各種補助事業活用や全国の取組事例」

講師：全国漁業協同組合連合会

浜再生推進部 次長

室井 尚氏

海業は、漁業所得の向上にとどまらず、地域全体の活力向上を目的とするものであり、全国563地区（2025年3月末時点）において策定・実施されている。2022年に策定された水産基本計画に基づき浜プランの見直しが行われ、海業の取組を計画に盛り込む地区が増えつつある。

海業には、飲食・加工販売、観光・レジャー・渚泊、体験・教育、養殖（漁港活用等）など多様な類型があり、地域資源を活用することで、新たな所得および雇用を生み出す大きなポテンシャルを有

している。一方で、その推進に当たっては、漁業者およびJFが主体となり、地域の実情や特性を十分に踏まえつつ、関係者が協調して取り組むことが不可欠である。

全漁連では、海業の活性化を目指すため、水産庁の補助事業を活用した経営コンサルタント派遣や計画策定支援、漁港施設整備等JFが活用可能な施策を発信し、海業の推進を後押ししていく。

□「愛媛県愛南町における海業の取組について」

講師：愛媛県愛南町

水産課海業推進室 室長

藤田 有紀氏

愛媛県愛南町は、総人口約1.8万人（2025年予測）の町であり、年間来訪客数は約70万人に上る。主要産業は水産業で特に養殖業が盛んであり、マダイやブリ類を中心に、クロマグロや牡蠣、真珠などが生産されており、年間生産量はマダイ約1.3万トン、ブリ類約3,070トンに達している。

IoTやAI技術を活用した給餌管理による無駄餌削減や、魚病診断等のカルテシステムの構築といった、水産業における技術革新が進められ、生産性向上と



全漁連 室井次長

安定経営が図られている。

また、愛南町では磯焼け対策として藻場造成による二酸化炭素吸収を目的としたブルーカーボンプロジェクトや、駆除ウニの有効活用を実施している。

さらに、地域資源を活用した海業の推進による地域活性化に取り組むため、一般社団法人Umidas（ウミダス）を設立し、水産人材の育成や観光との連携、体験学習型ツアーの展開を通じて、地域への理解と愛着を深め、持続的な地域活性化を目指している。

出席者からは、「海業について検討しているので参考にしたい」「具体的な事例について聞くことができ勉強になった」といった意見がありました。

今後も漁協活動の発展に向け、各種研修会を実施していきますのでご参加いただけますようお願いいたします。



愛南町役場 藤田室長



研修会の様子

# 令和7年度 県外浜廻り活動の実施

## 長崎県いか釣漁業協議会

さる12月16日から18日にかけて本協議会役員による県外浜廻り活動を実施しました。

長崎県いか釣漁業協議会は、本県沿岸海域並びに県外・沖合に出漁するいか釣り漁業者の出漁調整や操業秩序に努め、いか釣り漁業の経営健全化・発展に資することを目的として活動しております。

例年、本協議会では、長崎県いか釣り漁船が入漁する県域の関係者と意見交換を行うため、本協議会役員が各県を訪問しておりますが、今年度においては、小型いか釣り漁業に関するスルメイカ採捕停止命令が発令されたことで、本県いか釣り漁業者が受ける影響や、回復傾向にあるクロマグロ資源に伴い、いか釣り漁具被害が多発している現状を報告するために、「全国いか釣漁業協議会」「本県選出の国会議員」を訪問し、意見交換を実施しました。

### 【全国いか釣漁業協議会との意見交換】

冒頭、事務局を務める全漁連（漁政部）田中参事よりこれまでの活動について報告がなされました。全いか協としては、「小型いか釣り漁業への更なる追加配分（2,100トン分）の実施」「科学的根拠に基づくTACの増枠」「休業を余儀なくされた場合の漁業者に対する救済措置」等の内容について、鈴木憲和農林水産大臣をはじめとした関係国会議員

への要請活動を実施したことや、これまでに開催された水産政策審議会に岩田副会長（鳥取県小型いか釣り漁業協会会長）・三浦常任幹事（JF全漁連常務理事）が出席し、現在のTAC管理に関する懸念や、今後小型いか釣り漁業者が劣後しない施策の構築について意見したことこの報告を受けました。また、今後スルメイカ操業が何かしらの方法で再開したとしても、漁獲量を早急に把握する体制が重要であることから、全いか協を中心に「迅速かつ正確な漁獲報告」の体制強化について協力要請がありました。

本協議会からは、「小型いか釣り漁業の早期再開」「本県においては、これから漁期を迎えるにも関わらず、スルメイカ操業ができない不安感」「現行のTAC制度に関する不信任感」等を意見しまし



全国いか釣漁業協議会との意見交換

た。本協議会としても、一刻も早い小型いか釣り漁業の再開に向け、改めて全いか協との協力体制を構築して参ります。

### 【本県選出国會議員への訪問】

長崎県選出の国会議員である山本啓介農林水産大臣政務官・古賀友一郎参議院議員・加藤竜祥衆議院議員・金子容三衆議院議員を訪問し、意見交換を実施しました。

本協議会からは、「スルメイカに関する資源評価の精度向上」「クロマグロによるいか釣漁具被害の実態報告」「スルメイカ採捕停止命令に伴う、本県関係漁業者の窮状」について報告し、本来の「いか釣り漁業」が営める施策の構築を要請しました。

山本啓介農林水産大臣政務官からは、



山本政務官との意見交換



山本政務官への意見書の提出

「自民党内でも今回の件は重く受け止め、長崎県の漁業者が早急にスルメイカ漁獲を再開できるように日々努力している」との前向きな意見を頂きました。今後については、「水産庁をはじめ全いか協と連携し、長崎県いか釣り漁業協議会としても可能な限り協力してほしい」との協力要請を受け、小型いか釣り漁業の再開に向け、お互い尽力していくこととなりました。

小型いか釣り漁業の採捕停止は、本県においてスルメイカの漁獲が無くなるのみではなく、吉岐・対馬海域から漁火が無くなり、国境警備機能の観点からも多くの懸念を抱える事態となっております。本協議会としても「一刻も早い操業再開」に向けて引き続き活動して参ります。

## 漁協合併のお知らせ

### 長崎県漁協合併推進委員会

令和8年4月1日より、『大村湾漁業協同組合』が新体制として、発足します。

大村湾漁協では令和7年12月9日の合併総会にて、西彼町漁協では令和7年12月11日の合併総会にて、両漁協の合併が可決承認されました。

これを受け、令和8年1月27日にセントヒル長崎において合併契約調印式を執り行い、吉田長崎県水産部長、山上時津町長、瀬川西海市長、鈴木長崎市長、藤山諫早副市長の立ち合いのもと、合併契約書への調印を完了しました。

両漁協は、組合員の高齢化や漁業生産力の低下といった共通の課題に直面して



合併契約調印式の様子

おり、組合員の生活と経営を守り抜くためには、組織の枠組みを超えた経営基盤の強化と効率的な運営体制の確立が不可欠であるとの判断から、令和8年4月1日より、新生『大村湾漁業協同組合』が発足することとなります。



左：松田組合長 右：川添組合長

新組合の概要は次の通りです。

【名称・代表理事組合長】

(名称) 大村湾漁業協同組合

(代表理事組合長) 松田 孝成 氏

【事務所】

(本 所)

西彼杵郡時津町浦郷542番地18

(東彼杵支所)

東彼杵郡東彼杵町大音琴郷93番地

(多良見支所)

諫早市多良見町木床1013番地112

(川棚支所)

東彼杵郡川棚町下組郷2095番地10

(長浦支所)

長崎市長浦町2751番地10

(西彼支所)

西海市西彼町八木原郷2017番地3

# 長崎県漁協青壮年部連合会会員・部員大募集

長崎県漁協青壮年部連合会



長崎女子短期大学との水産教室の様子

本会では、会員相互の連絡協調を図り、漁協青壮年部活動の強化を促進し、漁協と緊密に連携して水産業の発展や漁村文化の向上のため、様々な活動を行っています。

現在は、県下の漁協青壮年部員はもろんのこと、系統団体や他の経済青年団体の青年部員に加え、研究機関（水産試験場や長崎大学等）とも定期的に情報交換を行っています。今年度は長崎女子短期大学の生徒を対象とした水産教室を1年生、2年生に各1回ずつ開催し、捌く魚の特徴や捌き方を教えました。また、経営ならびに地域活動等の成果を発表す



全国青年漁業者交流会長崎県大会表彰式の様子

る「全国青年漁業者交流会長崎県大会」を実施するとともに、会員相互の親睦を深めるために「ソフトボール大会」を開催しました。

今後も青壮年部組織の更なる活性化及び強化を図って参ります。本会の活動に興味がある青壮年部もしくは若手漁業者がいらっしゃれば、事務局までご連絡下さい。

●事務局・長崎県漁連指導課内  
(担当：河北)  
電話：095-1829-12415

## 募金ありがとうございます

(公財) 漁船海難遺児育英会

(公財) 漁船海難遺児育英会は、漁船の海難事故(転覆・衝突等)や海中転落等の事故により、親を亡くされた遺児の経済的・精神的援助を目的に設立され、幼児から小中高生・大学生に学資事業を行っています。

しかし、教育費の高騰により資金的にはまだ十分とはいえませんので、今後とも皆様の温かいご協力をよろしくお願いいたします。

1月には次の方々からご寄付をいただきましたので、ここに厚くお礼申し上げますとともに、紙上にお名前を掲載させていただきます。(敬称略)

【団体】

- ▼生月漁協
- ▼(一社)長崎県水産加工振興協会

# 漁船海難月報

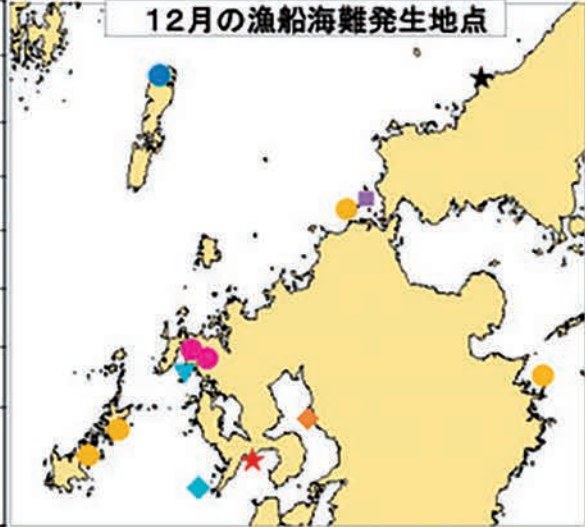
令和8年1月号 第七管区海上保安本部  
第266号 交通部安全対策課 発行



令和7年12月発生  
七管内漁船海難 13隻

令和7年12月末現在 累計 73隻  
漁船海難発生隻数は前年に比べ 15隻増加

漁船海難隻数 (速報値)		県別内訳	
		12月	令和7年累計
衝突	★ 1	山口県 2	12(6)
単独衝突	★ 1	福岡県 2	12(7)
乗揚	● 4	佐賀県 0	6(3)
火災	● 2	長崎県 8	40(33)
浸水	● 1	大分県 1	3(9)
転覆	▼ 1	合計	13隻 73隻(58隻) ( )は昨年同月
運航不能 (推進器障害)	■ 1		
運航不能 (有人漂流)	◆ 1		
運航不能 (無人漂流)	◇ 1		
合計: 13隻			
死者・行方不明者: 1名			

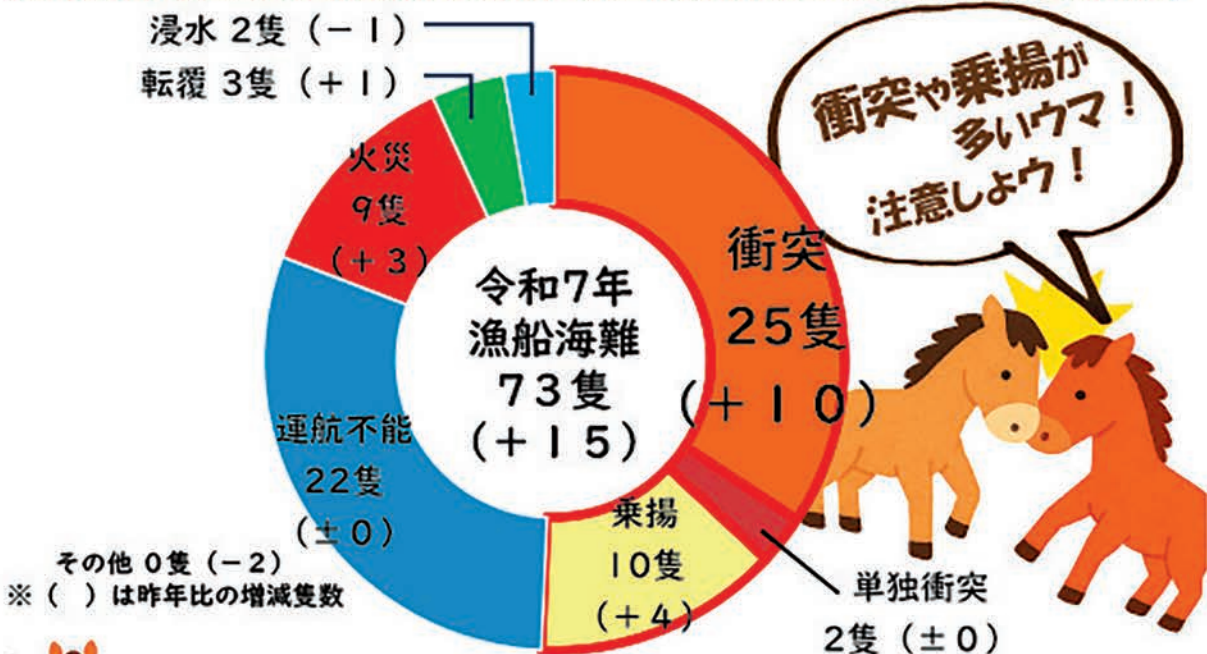


累計死者・行方不明者数 4名 (令和7年12月末日現在)

※令和7年の海難隻数については、速報値です。

## 令和7年漁船海難 衝突事故が多発!

七管区管内における令和7年の漁船海難隻数は「73隻」となりました。  
平成17年以降の統計において過去最少の令和6年「58隻」に次いで少ない海難隻数となっています。



あなたの大切な命と船を守るため、今年もしっかりと安全意識を高めていきましょう!  
本年もよろしくお願いします

# インターネットショッピングサイト

長崎県の安全・安心で新鮮な鮮魚・加工品を  
インターネットを通じてダイレクトに食卓へお届けします!!  
美味しいものはここにある

## 長崎漁連

ウェブショッピング JF長崎漁連

<https://www.jf-nagasaki.com>

長崎自慢の海産物を  
ネットでお取り寄せ!

JF 長崎県漁業協同組合連合会

# 漁船の衝突事故が多発しています

## 衝突事故に注意

### 他船との衝突事故が最多

漁船事故種類別割合 (令和2～令和6年) 2,246隻

衝突	25% (564隻)
無人漁漁	14% (306隻)
乗船	10% (229隻)
転覆	10% (217隻)
推進器・舵故障	8% (184隻)
火災	8% (173隻)
その他	25% (573隻)

### 衝突時の乗船人員

2人乗り以下が8割

衝突時の乗船人員 (令和2～令和6年) 564隻

1人	55% (311隻)
2人	22% (124隻)
その他	23% (129隻)

### 衝突の原因

見張り不十分が8割

衝突原因別割合 (令和2～令和6年) 564隻

見張り不十分	76% (424隻)
操縦不慣れ	12% (70隻)
不可抗力など	6% (34隻)
悪天候	6% (34隻)

水産庁 海上保安庁

水産庁 〒100-8907 東京都千代田区霞が関1-2-1 TEL: 03-3592-0731  
海上保安庁 〒100-8976 東京都千代田区霞が関2-1-3 TEL: 03-3591-6361

# あっぱれ

船舶塗料の専門店

山二塗料株式会社

0956-31-8020

# まごころで大きく包む

パッケージ資材全般・包装機械

## 株式会社 丸本

本社・営業部 / 〒851-0134 長崎市田中町593-1  
☎ 095-837-8205 FAX 095-837-8208  
工場・営業所/福岡工場・熊本工場・福岡営業所

# 定置網周辺の潮流・水温リアルタイム計測

株式会社ゼニライトプライ

九州営業所 TEL: 092-674-0001 FAX: 092-674-0002

日付	時刻	電圧 (V)	電流 (A)	流速 (cm/sec)	水温 (℃)			
2023-07-09	08:40:30	6.00	24.1	20.23	15.20	20.86	11.14	0.20
2023-07-09	08:30:33	6.00	24.1	20.49	11.92	27.24	11.14	0.21
2023-07-09	08:20:33	6.00	24.4	20.48	11.93	26.53	11.13	0.21

# ハイビジョン (23.0cm ~ 28.0cm)

# シーガル201

シバタ工業株式会社

長崎出張所 〒852-8124 長崎市辻町3-40 平山ビル1F TEL: 095-844-1210

# FURUNO

CHALLENGE the INVISIBLE.

古野電気株式会社

北九州支店 / 長崎営業所 095-861-3261 佐世保営業所 0956-48-4440  
福岡営業所 092-711-1777 [www.furuno.com](http://www.furuno.com)

# Printing & Planning SEIBUNSHA

(有)正文社印刷所

〒850-0874 長崎市魚の町6番7号  
TEL (095) 826-0211  
FAX (095) 825-0538  
URL <https://seibunsha.jp>

貝殻  
リサイクル魚礁



# JFシェルナース



魚礁  
(6.0型)



イサキ(対馬市)



ヒラマサ(西海市)



メバル(佐世保市)



イセエビ(新上五島町)



マダイ(対馬市)



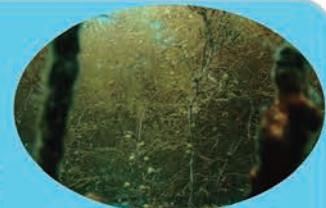
マアジ(南島原市)

保護礁  
(プラス1.0型)



漁業者による  
種苗の準備

取り付けた海藻は  
順調に  
生長しています!



設置10年以上経過  
ホンダワラ類(長崎市)



2カ月後(長崎市)



1年2カ月後(対馬市)



1年5カ月後(平戸市)

漁師の考えた小型ブロック

貝藻くん



60cm×55cm×45cm、重量60kg

長崎県内で1,156基(全国約12,573基)  
ご採用いただいております(2013~2024.4.1現在)



クロメ生育状況



下の隙間に隠れるクエ

お問合せ先 JF長崎漁連 購販部 購買課 TEL 095-829-2420

開発・製造 海洋建設株式会社



**JF**  
JFグループ

着けよう、  
あなたが家族のことを  
思うなら。

めざせ！  
海難事故

自分の命は自分で守る！  
わずらわしさと窮屈さから解放！  
ベスト感覚で着れる  
ファッションなライフジャケット  
常時着用型救命胴衣(自動膨張式)

膨張時

反射リフレクター  
エア-吹入補充バルブ  
ホイッスル  
炭酸ガスボンベ  
手動レバー

お問い合わせは、長崎県漁連 購買課まで TEL 095-829-2418~2420

# 「ギョレンオイル大漁」 発売から 50 年



「ギョレンオイル大漁」は、漁船で使用される機械とその使用条件を考慮して定めた規格に合わせて開発した、漁船のためのエンジンオイルです。

ギョレンオイル  
**大漁**  
シリーズ

## 大漁スーパー

中・小型漁船の高速エンジン用 (SAE30、40、15W-40)

## 大漁ロイヤル

大・中型漁船の中・低速エンジンオイル (SAE30、40)

## 大漁LL

大・中型漁船の長期航海用 (30、40)  
小型高出力エンジン用のロングライフオイル (15W-40)

## 大漁ハイドロスーパー

耐荷重性に優れた漁船用油圧作動油 (ISO VG32、46)

## 大漁ベストクール

陸上冷凍装置から遠洋漁業の超低温冷凍装置まで  
(ISO VG32、46)

漁協は、JFグループへ。

JFブランド商品

# “ギョレンオイル大漁シリーズ”

漁船用エンジンのための最高級オイル。

〈エンジンオイル〉

- 大漁スーパー
- 大漁ロイヤル
- 大漁LL

〈油圧作動オイル〉

- 大漁ハイドロスーパー

〈冷凍機オイル〉

- 大漁ベストクール



海には、JFマークの商品を。



JFグループ

問い合わせ先  
問い合わせ先

JF全漁連 購買事業部 石油第2課  
JF長崎漁連 購買課

TEL 03-6222-1323  
TEL 095-829-2419



発行/長崎県漁業協同組合連合会  
〒850-8686 長崎市五島町2番27号 TEL095-829-2413  
年間購読料 2,000円 (会員の購読料は会費に含む)

長崎県漁連 WEBサイトアドレス  
<http://www.nsgyoren.jf-net.ne.jp/>

